

SOFAS と sSOFAS の採点の要点

採点の詳細に関しては SOFAS 評価マニュアルを参照のこと。

採点の原則

SOFAS と sSOFAS の採点の原則は同じである。

1) 10 点幅のスコアリング

SOFAS は各領域の最も低いスコアを採用する。例えば、仕事に打ち込んで高い機能を示していたとしても、友人がいなかったり、家族関係が悪化していた場合には、(仕事の高い機能は評価されるものの)、友人がいない点や家族関係の悪化の方を優先して評価する。例えば、SOFAS では友達がほとんどいないことを中等度の困難と評価し、51-60 の間にスコアリングするように指示がある。これは仕事の機能が高かったとしても、51-60 の範囲でスコアリングすることになっている。

2) 1 点刻みのスコアリング

10 点幅の中のスコアリングは、a)障害のある領域の重症度、b)その他の領域の障害の重症度の 2 点を考慮して評価する。

SOFAS における中間コードの使用

原版 SOFAS では、今回の測定では中間コードを 1 つ採用する。10 点幅(例えば 51-60)を決めたのち、その 10 点幅の中で 3 段階評価を行う。最も重いときは最低点を採用する(例:51)。軽度だと判断できる時には最高点(例:60)を採用する。使用する中間コードは 5 の値である(例:55)。

sSOFAS の得点システム

sSOFAS は最も低い機能の領域によって、10 点幅(例えば 51-60)が決まる。残りの 1 点刻みは残りの 2 領域の情報によって決定する。sSOFAS は原則的に 1 点刻みの得点が提示される。SOFAS では、最も低い領域の機能の重症度がその後の 1 点刻みにも反映されるが、sSOFAS ではその情報は使用されないという違いがある。